

第4章 整備に向けた現状の整理と課題の抽出

1. 現状の整理

(1) 史跡指定の範囲と公有地化状況

阿津賀志山防塁は、昭和53年に欠下地区～国見内地区の一部が伊達西部地区圍場整備事業の実施に伴い、事業施行者・地権者との協議により、これまで町指定史跡だった国道4号より北の部分に加え、下二重堀地区や高橋地区の史跡主要部等を工区から除外し国指定史跡として保存を図ることとなった。そして昭和56年3月、阿津賀志山山頂から国道4号までの800m、高橋地区100mと下二重堀地区250mの長さ合計1,150m、遺跡全体の約36%に当たる部分が国の史跡に指定された。

しかし、この史跡指定地域の他にも国道4号の南に位置する東国見・西国見地区、防塁の中間部に位置する遠矢崎地区、高橋地区の西に接する赤穂地区、阿武隈川旧河道に面する欠下地区でも良好な地上遺構が見られたが、未指定のままであることから、追加指定の必要性が議論された。さらに、平成10年に西国見・東国見地区で行われた、町道110号線の拡幅工事に伴う防塁遺構の発掘調査で良好な遺構が確認された。

これら未指定地区で遺構が良好な部分・指定地区に接続する地区で不明な点がある部分については、平成19年より史跡追加指定のための確認調査を開始し、平成28年3月に一部指定範囲が拡大された。現在も継続して、追加指定に向けた調査を行っている。

また、国史跡指定地にかかる公有地化の状況は次のとおりである。

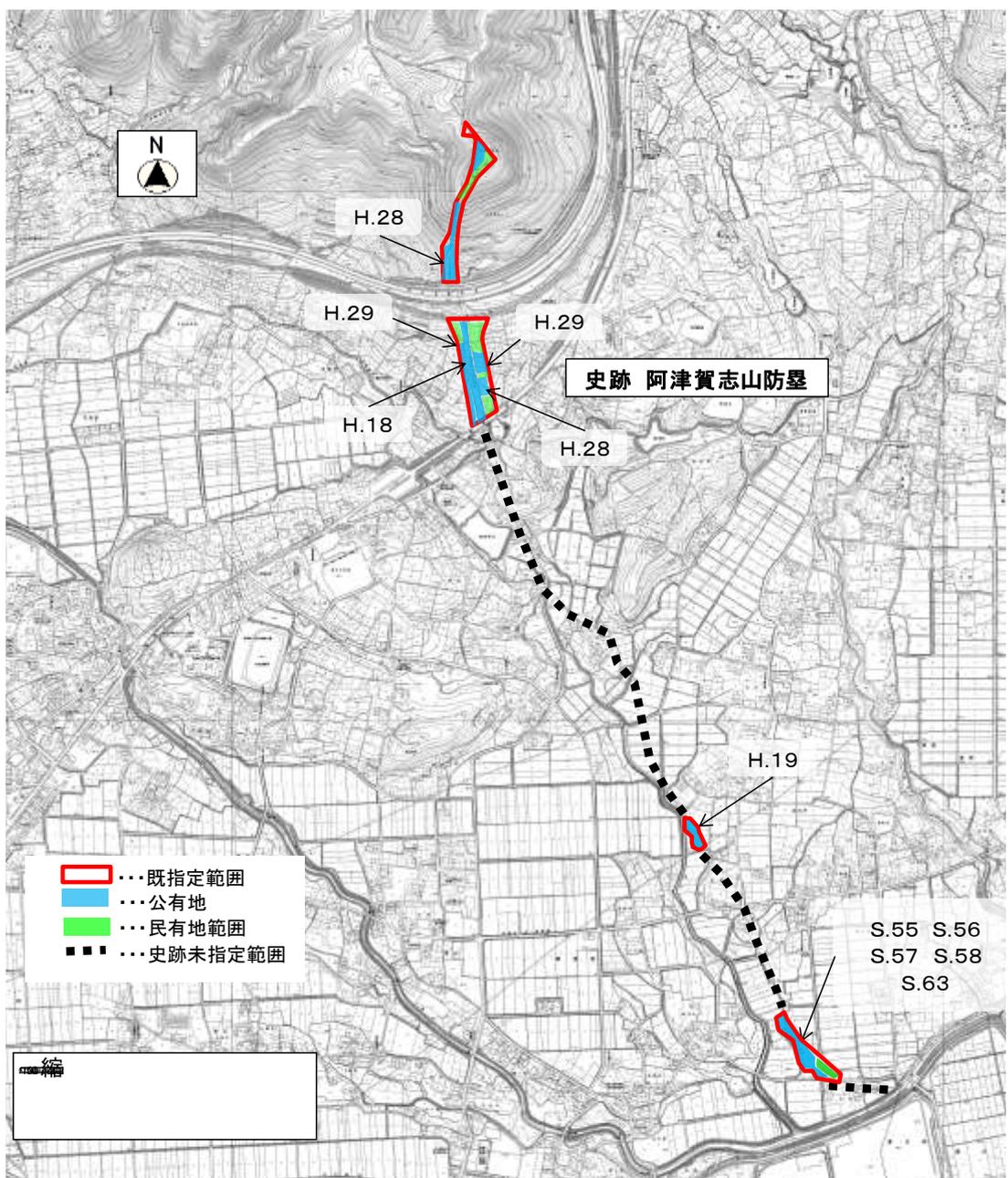
■国史跡指定地の公有地化年度及び面積

年度	面積(㎡)	備考
昭和55年	2554.935	下二重堀地区地区(昭和56年3月16日指定分)
昭和56年	389.030	下二重堀地区地区(昭和56年3月16日指定分)
昭和57年	1278.885	下二重堀地区地区(昭和56年3月16日指定分)
昭和58年	779.540	下二重堀地区地区(昭和56年3月16日指定分)
昭和63年	265.885	下二重堀地区地区(昭和56年3月16日指定分)
平成18年	4855.080	国道4号北側地区(昭和56年3月16日指定分)
平成19年	2405.000	高橋地区(昭和56年3月16日指定分)
平成28年	2232.900	二重堀始点地区2筆(昭和56年3月16日指定) 国道4号北側地区1筆(平成28年3月1日追加指定分)
平成29年	3613.200	国道4号北側地区7筆(平成28年3月1日追加指定分)
合計	18374.455	

■ 国史跡指定地における所有別面積

史跡指定地	38,308.30 m ²
うち公有地	25,943.34 m ² (指定地に対する公有地割合：67.7%)
うち私有地	12,364.94 m ²

■ 阿津賀志山防塁全体の史跡指定地、公有地化の状況



史跡指定地は約3分の1にとどまり、今後も調査と追加指定の取り組みが必要

(2) 保存に関わる現状

平成 27 年台風 17 号による大雨の影響で、阿津賀志山防塁下二重堀地区においては、2カ所において土塁が崩落した。

この部分は下二重堀地区において、外土塁法面の良好な形状が残されている箇所であることから、史跡の景観を壊さない復旧方法が検討された。加えて、崩落土砂除去の際に土層観察等を行い、防塁の基礎情報として把握してきた。

崩落の原因は、記録的な大雨によるところが大きいと考えられるが、崩落地点は防塁を横断する用水路が入り、外土塁が低平であることから水の流路になっていたことが考えられる。経年変化によるき損対策も必要となっている。

雨水・流水・経年劣化によるき損対策が必要

■ 下二重堀地区における法面の崩落範囲図



(3) 周辺の土地利用と規制法

①都市計画法による規制

阿津賀志山防塁は、阿津賀志山中腹から阿武隈川河岸までの 3.2 km にわたる長大な史跡であるが、その全体が都市計画法上の市街化調整区域である。このため、建築物の新築や増築を極力抑える地域であり、市街化を抑制すべき区域とされている。このため、未指定地の開発等によるき損の恐れは少ないものと考えられる。ただし、一定規模までの農林水産施設や公的施設、公的機関による土地区画整理事業などによる整備は可能とされている。

◆国史跡指定範囲外においては、無秩序な開発は抑制されているものの、農業施設整備等による史跡の改廃の恐れがある。

②農業振興地域の整備に関する法律（以下「農振法」という。）及び農地法による規制

阿津賀志山防塁の周辺は、町が策定する農業振興地域整備計画において、一帯が農業振興地域に指定されている。さらに指定範囲の大半は、市町村がおおむね 10 年を見通して農用地として利用すべき土地として農地転用が原則禁止される農用地区域である。

◆国史跡指定範囲外の大半は、農用地区域に指定されており、農地転用は原則禁止されているため、史跡の改廃の恐れは低いと考えられる。

③水害に対する防災対策

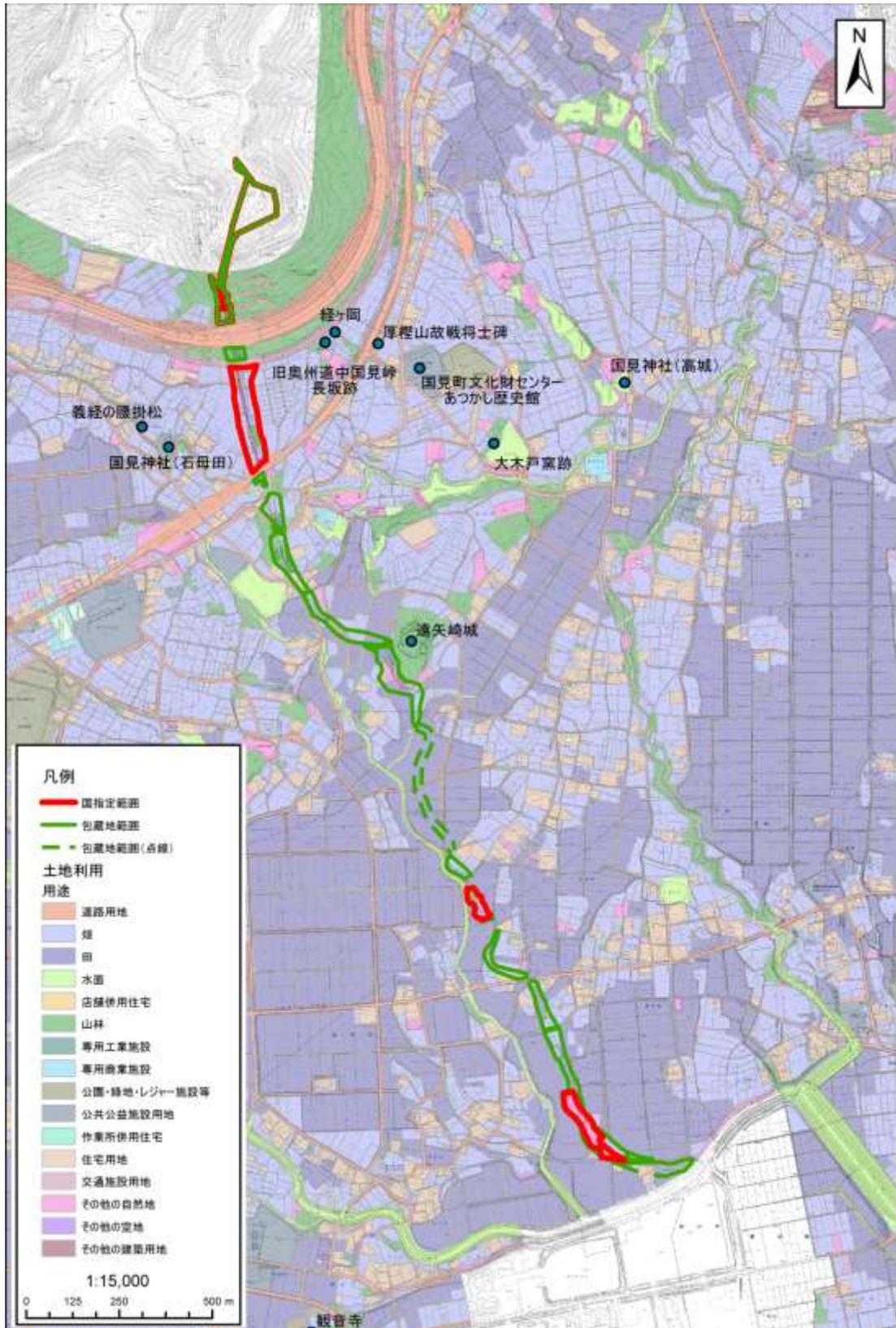
阿津賀志山防塁の周辺には河川が近接・隣接している地点があり、滑川（町管理河川）・滝川（県管理河川）が近接・隣接している。平成元年の 8.5 水害や平成 11 年の豪雨災害により、阿武隈川の堤防については平成の大改修によりかさ上げされた。

このことにより、阿武隈川での外水による氾濫被害は大幅に解消されているが、阿武隈川の水位上昇に伴う流入支川への逆流防止のため樋門・樋管や水門等のゲートを閉めることによって、支川からの水が本川に排水できなくなり、支川合流付近で生ずる内水氾濫が顕在化している。このため県では順次管理河川の改修を行っているが、阿武隈川の支川のひとつである「滝川」の堤防改修により、滝川に流れ込む「滑川」の堤防改修が実施されることとなっている。

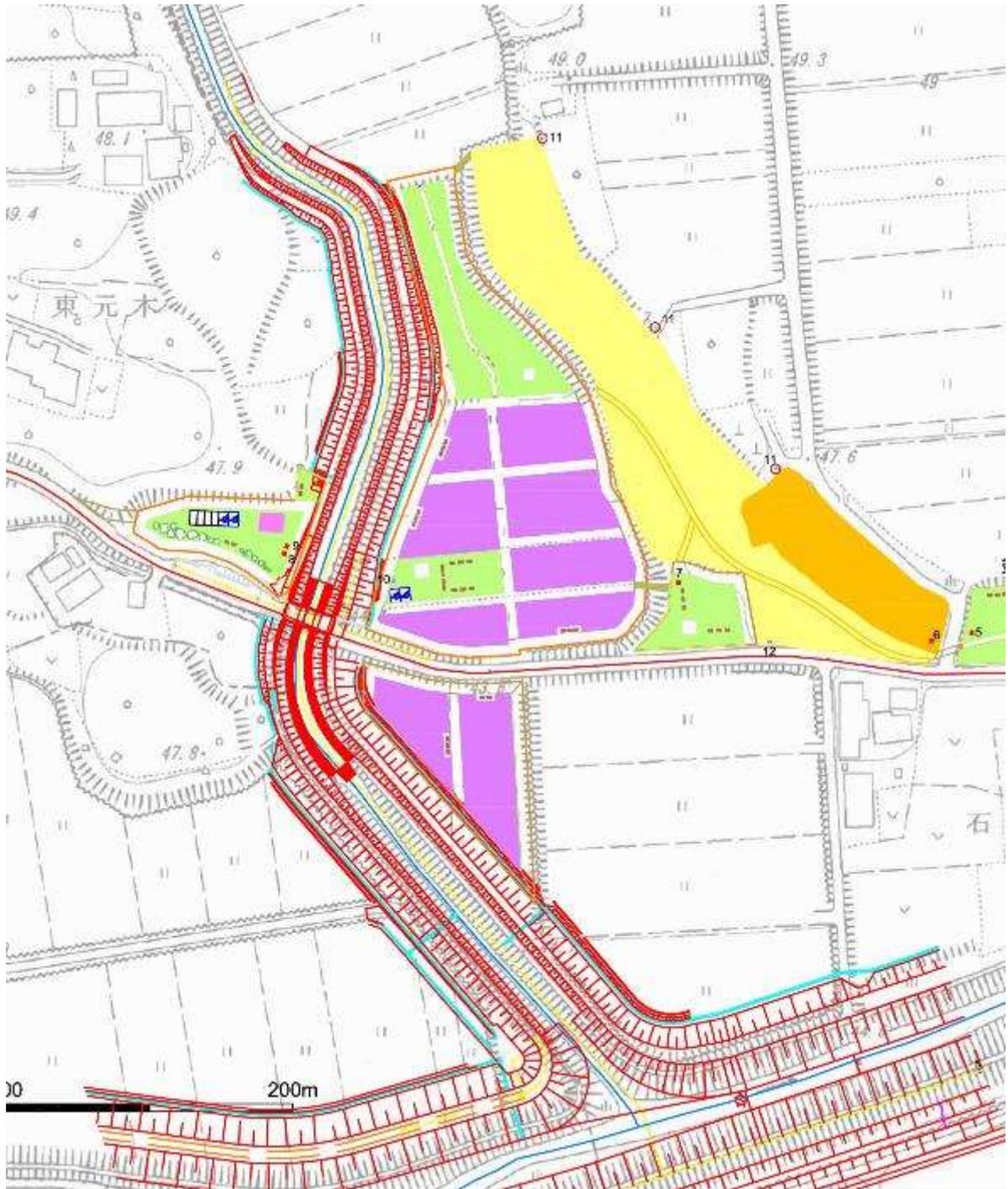
◆滑川の改修による堤防かさ上げは、防塁から見た下二重堀地区の景観が大幅に変わってしまうことも想定される。

農業用施設等による史跡改廃、河川改修による景観阻害の懸念

■阿津賀志山防塁と周辺土地利用図



■滝川と滑川の合流部改修図面



(4) 史跡周辺の交通網とアクセス

①アクセスの概況

阿津賀志山防塁は、阿津賀志山の中腹より 3.2 kmにわたる長大な遺構であるが、その軍事的目的により、古代からの主要な交通路である旧奥州街道（奥州道中、東山道など時代により呼称が異なる）などの交通路を遮断する目的で築造されたものである。このため、現在の主要幹線道である「国道 4 号」「東北自動車道」に近接しているという利点があるものの、長大なため、史跡全体として考えると主要幹線道に近接する部分は一部分に限られている。

②国道 4 号北側地区へのアクセス

国史跡指定地で最も交通の利便性が高いのがこの地区である。東北自動車道国見インターチェンジを降り、国道 4 号を北上すれば、ほどなく阿津賀志山のみもとに隣接する 4 号北側地区にアクセスできる。看板も設置されており車でも十分認識できるものとなっている。しかしながら、この場所には、駐車スペースがないため車から降りて見るができない。

③下二重堀地区へのアクセス

国道 4 号を北上し、国見町役場から県道 320 号五十沢国見線（大枝街道：旧奥州街道の脇街道で現在の伊達市梁川町に向かう）に入り、途中から阿武隈川河畔に向かうルートとなるが、国道 4 号及び県道 320 号線に案内看板やサインが少ない（小さい）ため、現在は、訪問者の多い中尊寺蓮開花の期間（6 月末から 8 月一杯）は幟旗を利用するなどして対応している。また、現地には駐車場やトイレ等の便益施設がなく、長時間の見学が困難な状況にある。

④交通手段による制約

国見町は、町内を回る交通手段は民間タクシーやデマンドタクシーに限られており、大人数で文化財見学を行う場合の移動手段は観光バスが主体となる。しかしながら、国史跡指定地の国道 4 号北側地区や下二重堀地区には大型バスが通行困難な道路部があるため、周遊の際に利用するバスの種類により案内できないことがある。

- 主要幹線道の近接の利点を活かすために
 - ⇒ 誘導サインの拡充、幹線道から現地までの誘導ルートの確保
- 駐車場やトイレ等の整備

(5) 周辺の関連文化遺産や公共施設について

町内には、奥州合戦に関係のある地名や源頼朝の戦勝祈願や江戸時代以降の紀行文に登場する源義経に関わる伝承地、伊達氏開祖の伊達朝宗に関わる史跡が存在する。史実との照合が困難なものも含まれるが、合戦にかかわる史跡・伝承地が町内一円に広く存在し、阿津賀志山防塁に関わる関連文化財群を構成している。

また、平成 29 年 1 月には、旧大木戸小学校を改修した施設で町の史跡や文化財のガイド機能を負う「国見町文化財センターあつかし歴史館」を設置した。さらには、平成 29 年 5 月に、来訪者の玄関、交流の拠点となる「道の駅国見あつかしの郷」がオープンした。建物の屋根の形は本史跡をモチーフのひとつとし、また施設内には「歴史産業情報コーナー」を設け、町の歴史や産業についての簡単なガイド機能も果たしている。

これらの関連文化遺産や公共施設は、本史跡の理解を深めるため、連携してそれぞれの魅力を伝える必要があり、また一体として周遊できる仕組みの構築が望まれる。

しかしながら、現時点においては、(4) 同様、周辺の関連文化財群においても、アクセスや便益施設、案内サイン等の設置状況について不十分な箇所があり、一体として周遊するには、それらの整備とともに周遊ルートの検討や丁寧なガイドスを行うことが課題となっている。



■奥州合戦に関わる地名・伝承地と周遊の拠点となる公共施設

源宗山(藤田城跡) げんぞうやま 旧奥州街道藤田宿の背後に位置する低丘陵で、鎌倉方の軍勢が藤田宿に到着した際に、源頼朝が本陣を置いたと伝わる。南北朝時代には南朝方の伊達行宗(第7代)配下の「藤田城」として、霊山城とともに南北朝争乱の舞台となり貞和3年(1347)に落城する。

鹿島神社 大字藤田に所在する神社。鹿島神社縁起には、源頼朝の戦勝祈願と藤田地名の縁起の伝説が残されている。

「(源頼朝は) 軍神鹿島明神に祈願し、爾来この地に藤田兵庫又の名大津を地頭として封し伊達家に配属せしめ、この宿の経営と神社の信仰に誠意を尽し神社修営に努めました。そのため里人その徳を慕い、この宿場を藤田と呼称するようになりました」(『鹿島神社記』)



■ 鹿島神社拝殿

観音寺 大字徳江に所在する寺院。寺の縁起に合戦に関わる記述が残る。

「烏帽子に白鳥を置いた徳江観音の社人が頼朝方の三浦吉村を案内し頼朝方を勝利に導いたため、三百貫文の寺社地を寄進された。」(『徳江観音寺縁起』 慶長7年(1602))



■ 観音寺観音堂

義経の腰掛松 江戸時代の紀行文に多数登場する。義経の腰掛松は、源義経と金売吉次の故事が伝えられ、多くの旅人が義経一行に思いを馳せ、詩を詠んだ。現地には、寛政12年(1800)建立の文学碑が残され、江戸の人々にも愛された名勝地を伝えている。



■ 平成元年頃の義経の腰掛松(平成25年に枯死)



■ 文学碑

弁慶の硯石 国見石を主体とする独立丘陵(硯石山)頂部に位置する奇岩。源義経に仕えた弁慶が硯として用いたとの伝説や、硯となった中央の窪みには水が枯れることなく溜まり続けるとの言い伝えがある。



■硯石山



■弁慶の硯石

伊達朝宗夫人墓 大字光明寺地内の福聚寺境内に所在。奥州合戦の戦功により伊達郡の地頭に補任された伊達朝宗の夫人が隠居所とし、その後墓所となる。鎌倉時代に伊達政依(第4代)により伊達五山の一つ「光明寺」として整備される。



■伊達朝宗夫人墓所

国見町文化財センターあつかし歴史館 平成24年に閉校となった大木戸小学校を改修し、町に数多く存在する大切な文化財を継承するため、収蔵・研究及びガイダンス機能を有し、また地域の方々が集う施設として、平成29年1月に開設。



■国見町文化財センター「あつかし歴史館」

道の駅国見あつかしの郷 町の復興、防災、交流連携の拠点として平成29年5月にオープン。施設には町内産の木材を使い、道路情報コーナーや歴史産業情報コーナー、地元野菜や果物を取り扱う直売所やレストランを設置。また、一時預かり機能も備えたこども木育広場や、会議や宴会にも使用できる研修室、さらには県内で初めて宿泊施設を備えた道の駅としている。当該施設は町が建設し、管理運営については町の指定管理者である「国見まちづくり株式会社」が行っている。



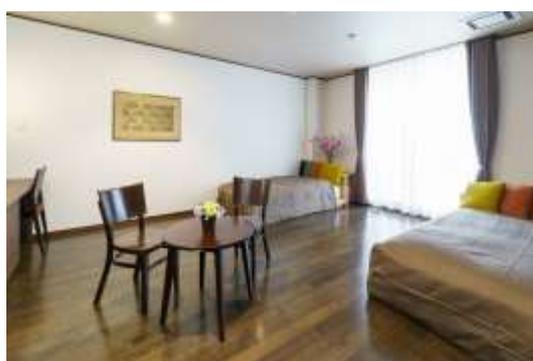
■阿津賀志山、二重堀、果物の曲線をイメージした屋根



■歴史産業情報コーナー



■こども木育ひろば



■宿泊施設

- 関連文化遺産と一体として周遊できる仕組みの構築
- 周辺公共施設との連携
 - あつかし歴史館：ガイドンス機能
 - 道の駅国見あつかしの郷からの周遊、道の駅を拠点とした情報発信

(6) 景観、地形について

阿津賀志山防塁は、3.2 kmの長大な遺跡であり様々な地形に立地しており、地区毎に多彩な景観を見せる。

山頂地区、二重堀始点地区、国道4号北側地区から南方への遠景は、阿津賀志山の中腹から始まった防塁が旧阿武隈川河道へと続く防塁の長大さを感じさせる景観となっている。遠矢崎地区、高橋地区、下二重堀地区など平野部から北方への眺望では、シンボリックに阿津賀志山が視界に入り、防塁の始点からの連続性を感じることができる景観となっている。

平野部では、おおむね滑川に沿うように防塁が築かれ、築造当時の川の地形を巧みに利用し、滑川に伴う低湿地（泥田）を堀とする起伏に富んだ地形がみられ、周辺一帯には田園風景が続く良好な景観が広がっており、将来にわたってこうした景観を保全していくための取り組みが必要となっている。

下二重堀地区では、平成23年度より岩手県平泉町中尊寺から株分けされた中尊寺蓮が地元有志によって栽培されており、7月から8月の開花時期にかけ蓮池には美しい花が無数に咲き誇る。蓮池は、防塁と滑川の間で低湿地に位置しており、川と低湿地についても防塁の防御性を構成していることを視認させ、奥州藤原氏と深いつながりがあることを示す役割を果たしていることから、史跡と一体的に整備することを検討する必要がある。



■ 下二重堀地区から阿津賀志山への眺望



■ 下二重堀地区に咲く中尊寺蓮

良好な景観の保全の必要性

(7) 見学者の状況、理解や満足度について

①国見町文化財ボランティアによる案内の状況

阿津賀志山防塁の価値は、見学者がその現況を見ただけでは十分には伝わらない。

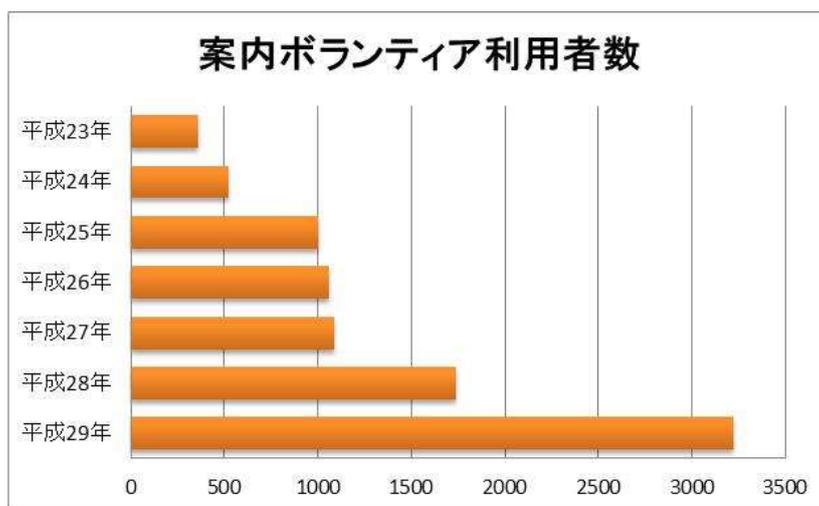
国見町は、町の文化財の活用を効果的に行い、町内外の多くの人々に文化財の存在を理解してもらう機会を提供するため、平成21年度より「文化財ボランティア」による案内ガイドの取り組みを実施している。当該制度の利用者数は年々増加しており、利用者は一様に「見ただけでは分からなかった」「案内ガイドの説明を聞いて理解できた」「防塁が残っていることの意義を知った」などの声を利用者アンケートに記している。

また、当時の状況（復元）が分かるともっと感動するなどの声もあることから、案内ガイドの育成や遺構の復元は、阿津賀志山防塁の価値を理解するうえで欠くことのできない要素であると考えられる。

■文化財ボランティアによる案内の様子



■文化財ボランティアの利用者数の推移



◆町全体の文化財等の案内ガイドの利用者数の推移。平成25年から増加している。利用者からは、深く理解できた、再訪したいなどの声が多い。

H27に観光業者の体験会を実施し、案内ガイドは必須との指摘あり。

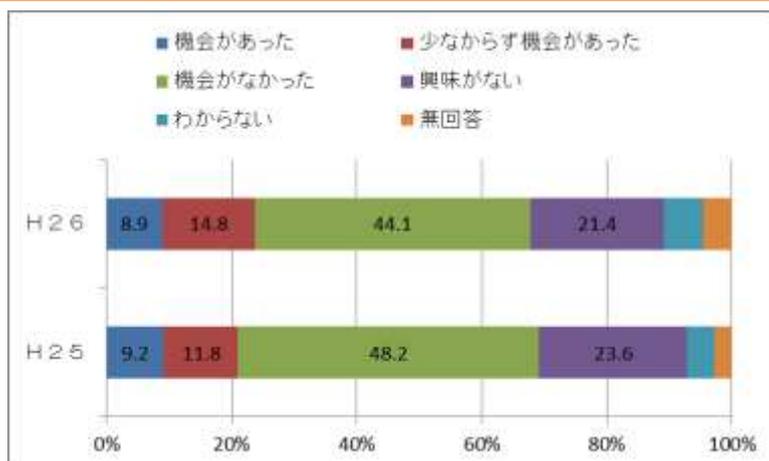
見ただけでは分からない ⇒ 現地の解説、遺構の復元、ガイドの重要性

②アンケート調査から見る認知度、興味度等について

国見町において実施した、町の文化財等の認知度や興味にかかる各種調査結果を以下に示す。

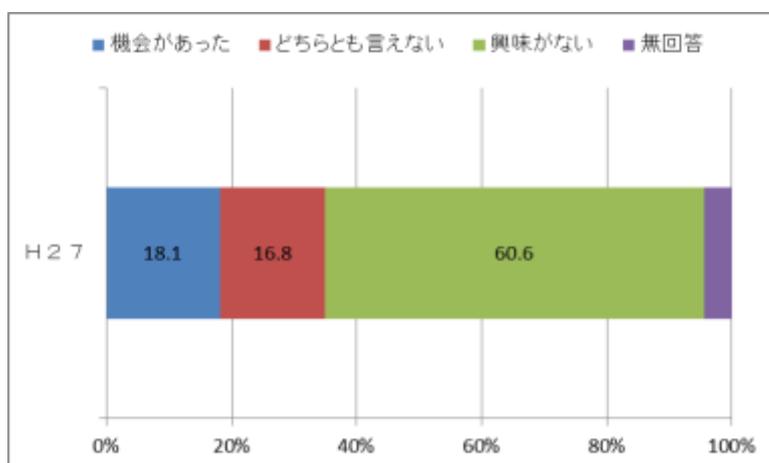
◆町民意識調査（国見町調査）

問 あなたは、この一年間に、町の歴史や文化財について学習したり、訪れたりする機会がありましたか。



◆「機会があった」と「少なからず機会があった」の合計はH25 年が 21%⇒H26 年が 23.7%と増加。

H26 年度より歴史的風致維持向上計画策定に向けたシンポジウム等を開催したことによると考えられる。



◆H27 年度は回答の選択肢を修正。「機会があった」と「どちらとも言えない（前年度までの「少なからず機会があった」と読み替え）」の合計は 34.9%となり、前年度より 12.2 ポイント増加した。同年 2 月に歴史的風致維持向上計画が国に認定され、様々な事業を開始したこと効果と見られる。

【参考】町民向け歴史まちづくり関連事業の実施状況

〈平成 26 年度〉

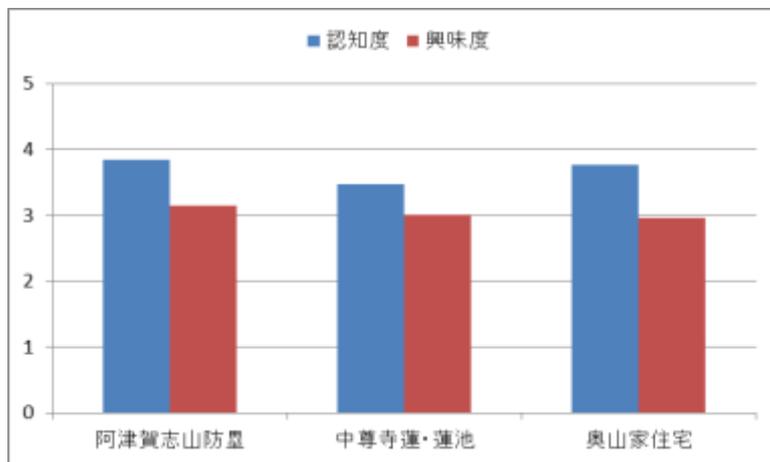
- ・歴史まちづくりシンポジウムの開催（4 回）
- ・案内ボランティア育成事業の実施

〈平成 27 年度〉

- ・歴史まちづくりシンポジウムの開催（3 回）
- ・案内ボランティア育成事業の実施
- ・鹿島神社例大祭講演会実施、冊子作成・配布
- ・奥山家アフタヌーンティーパーティーの開催
- ・奥山家住宅公開（くにみしゅらん）

◆H28 地域プロモーション事業に向けた町民意識調査（国見町調査）

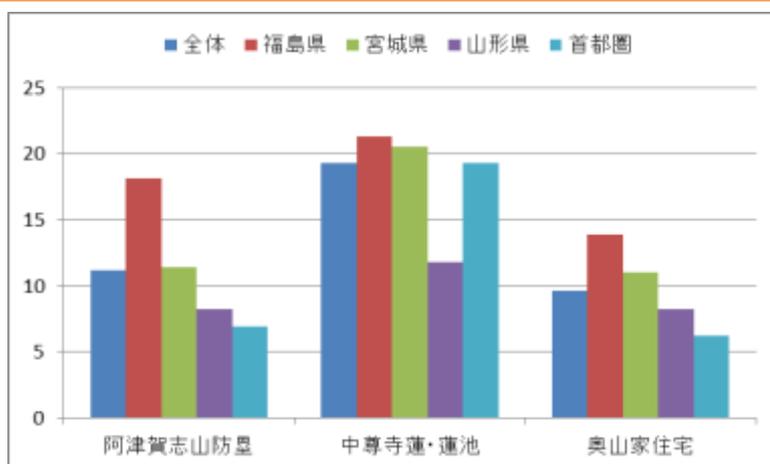
問 いずれかの文化財について、①認知状況(知っている)
②その興味関心の度合いについて教えてください(いずれか一つの文化財を選択)



◆町民を対象とした意識調査では、阿津賀志山防塁と中尊寺蓮・蓮池の認知度や興味度に差がないことが分かる。
※認知度・興味度を1～5点で回答させ、平均化した5点…よく知っている、とても興味がある
1点…全く知らない、全く関心がない

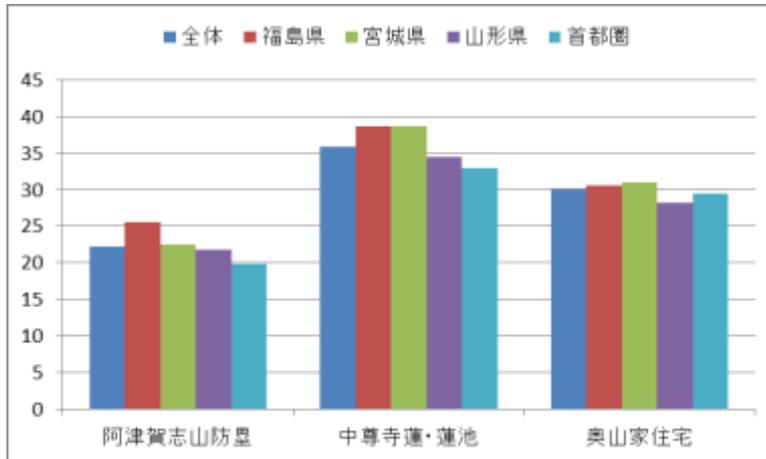
◆H27 年福島県国見町GAP調査

問 福島県国見町の観光資源、観光施設などに関して、これらの文化財のことをご存じですか



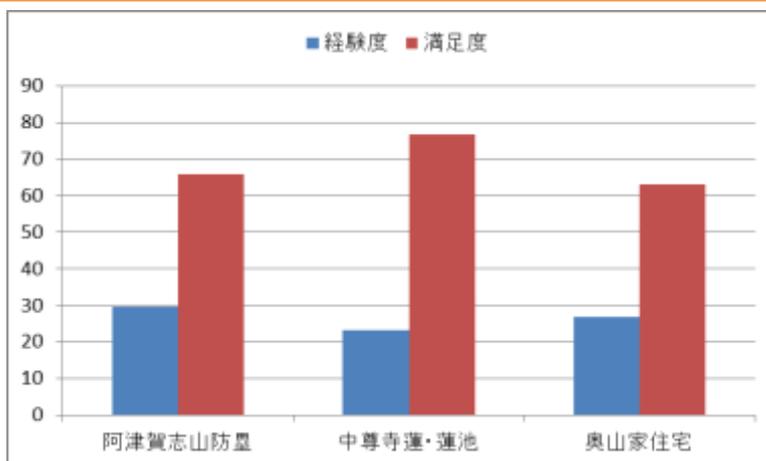
◆認知度では、阿津賀志山防塁の認知度より中尊寺蓮・蓮池の認知度が高い。特に、中尊寺蓮・蓮池は福島、宮城、首都圏での認知度が高い。
※「よく知っている」「だいたい知っている」「聞いたことがある」「知らない」の4択のうち、「知らない」以外の3択の回答の合計値をグラフ化

問 福島県国見町の観光資源、観光施設などに関して、これらの文化財について興味がありますか



◆興味度では、中尊寺蓮・蓮池の興味度が高い。特に地域的な傾向がないことも読み取れる。
 ※「興味がある」「やや興味がある」「どちらともいえない」「あまり興味はない」「興味はない」の5択のうち、興味度の高い2択の選択者の合計値をグラフ化

問 これらの文化財について知っている人にお聞きします訪れたり、見たり、経験したことはありますかまた、その時の満足度はどうでしたか



◆阿津賀志山防塁や中尊寺蓮・蓮池などを知っている人のうち、実際に見たことのある人（経験度）、見たことのある人の満足度では、中尊寺蓮・蓮池の満足度が高い。
 ※回答者全体でのみ比較
 ※経験度は「ある」をグラフ化、満足度は「大変満足」「満足」「どちらともいえない」「不満」「大変不満」のうち、満足度の高い2択の選択者の合計値をグラフ化

上記の調査結果を見ると、まず町民が町の歴史や文化財に触れる機会は、平成27年2月の国見町歴史的風致維持向上計画の認定により、主にソフト事業として様々な事業を行ってきたことから増加しているものと考えられ、一定の成果と評価することができる。今

後も、計画に基づき事業展開を図りながら継続的な情報発信を行うとともに、庁内各部局との連携による新たな機会の創出等に取り組んでいく。

次に、阿津賀志山防塁に対する認知度の高さであるが、当然のことながら国見町内>福島県内>福島県外の順となると思われるが、興味度については、上記の調査結果によると、国見町内では認知度よりも興味度の方が低く、「地元だから知っている（認知度が高い）＝関心がない（興味がない）」ということが言える。県内・県外では、認知度は低いに興味・関心が高いことが分かる。これは適切な情報発信により、認知度が向上する可能性が高いことを示している。

また中尊寺蓮・蓮池は、認知度・興味度ともに阿津賀志山防塁のそれを上回っており、阿津賀志山防塁の認知度・興味度を上げるためには、中尊寺蓮の持つ歴史性や物語を最大限活用することが効果的であると考えられる。

「認知度の低さ」と相対的な「興味度の高さ」 ⇒ 戦略的な情報発信の必要性

※文中に引用したグラフ等の意識調査の概要

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
調査の目的	第 5 次振興計画(前期計画)の進捗管理	第 5 次振興計画(前期計画)の進捗管理	第 5 次振興計画(後期計画)策定に向けた調査	まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づく地域プロモーション事業に向けた調査
調査期間	平成 25 年 8 月 14 日～9 月 4 日	平成 26 年 8 月 26 日～9 月 25 日	平成 27 年 9 月 1 日～10 月 9 日	平成 29 年 3 月 17 日～3 月 27 日
調査対象	18 歳以上の 2,000 人	18 歳以上の 2,000 人	18 歳以上の 2,000 人	18 歳以上の 2,000 人
手法	郵送配布・郵送回収	郵送配布・郵送回収	郵送配布・郵送回収	郵送配布・郵送回収
回収率	49.1%	49.7%	43.2%	34.7%

平成 27 年度福島県国見町 GAP 調査

- 調査期間 平成 28 年 2 月 19 日～2 月 21 日
- 対象者 インターネットリサーチ「マクロミル」のモニタ会員 1,050 名
- ターゲット設定
 - ・年代 20 歳以上
 - ・性別 男性 50%、女性 50%
 - ・都道府県 福島県 310 名、宮城県 210 名、山形県 110 名、首都圏 420 名

(8) 学校教育と連携した学習の取り組み

町内の小中学校では、第2章で述べたとおり、郷土の歴史と国見を学ぶ活動が続けられている。この活動の中で、町のシンボルかつ歴史の根源である阿津賀志山防塁について学び、体感することは、史跡への理解を深めるだけでなく、郷土愛の醸成につながる。この阿津賀志山防塁を、将来にわたって地域が愛着を持ち、守り伝えていくためには、その担い手となる子どもたちの人材育成やまちづくりへの参加が必要不可欠である。

今後も学校教育と連携し、阿津賀志山防塁を教材として取り入れ、活用する取り組みを継続していく必要がある。

学校教育における阿津賀志山防塁を教材とした学習機会の創出

■ 国見小学校における阿津賀志山防塁に関わる学習の様子



2. 住民ワークショップのまとめ

(1) 子ども歴史まちづくりワークショップ『阿津賀志山防塁の未来をデザインしよう』

1) 概要

町の次世代を担う子ども達を代表し国見小学校の児童に阿津賀志山防塁の魅力、活用法について考え、意見を出してもらう機会とするため、桜の聖母短期大学の協力を受けながらワークショップを開催した。

当日の午前は、実際に現地で防塁を見学し、遊びを取り入れながら防塁を体感する「チャンバラ合戦」を行なった。午後は、大学生と子ども達が「防塁のイトコロをたくさんの人に広めるには？」をテーマに話し合い、発表を行った。

日 時：平成 28 年 10 月 30 日（日曜日） 11 時 00 分～15 時 30 分

場 所：阿津賀志山防塁（下二重堀地区）、国見町役場大会議室

参加者：国見小学校 5～6 年生 10 名

桜の聖母短期大学(講師及び学生) 6 名



防塁の上立って歴史を学ぶ



防塁を体感！チャンバラ体験



ワークショップで良いとこさがし



話し合いをプレゼン

2) 成果発表 「防塁のいいところを広めるには」
 ≪Aチーム≫

- ◆防塁 四季に合わせたイベント
- はる⇒ 花見(もも)スポット、写真・イラストコンテスト (表彰は防塁で!)
 - なつ⇒ 国見の食材でBBQフェス、キャンプファイヤー、水遊び(水鉄砲、水風船)
 - あき⇒ 運動会(チャンバラ)、武者体験、出張版鼓笛パレード (武者姿、馬も配置)
 - ふゆ⇒ 地域対抗雪合戦、イルミネーション(柿の木で)



≪Bチーム≫

- ◆防塁のいいところ
- ①めずらしい (長い、深い、二重堀)
→歴史がある、人が作った、風が気持ち良い
 - ②自然がいっぱい (景色がきれい)
→緑がきれい、高いところから見られる
 - ③歴史がある→日本三大防塁、今も残っている
 - ④蓮の花がある→蓮の花がきれい、八百年の歴史



- ◆こうしたらもっと防塁楽しめるよ!
- ①食べる体験⇒芋煮会、レンコン収穫体験、レンコンラーメン、蓮の実スイーツ、防塁ケーキ、流しそうめん
 - ②ハイキング (3.2 km) →健康にいい
 - ③サプライズプロポーズ (見晴らしが良い、長い防塁で未ながく幸せに)
 - ④写真・絵のコンテスト (防塁から鉄道写真)
 - ⑤創作型イベント (蓮を丸ごと楽しむ、家でも美しい蓮を見れる生け花、葉っぱ傘)
 - ⑥体験型イベント (超ロング反復横とび、乗馬、弓矢、防塁マラソン)
 - ⑦イベント (防塁でクイズ大会、ローソクロード、農家と密着映画、チャンバラ大会)
 - ⑧PR (ラッピング電車、アニメとコラボ)



《Cチーム》

◆防塁 こんなことしたら広められるよ！

- ①景色（展望台、周遊バス）
- ②PR（パンフレット、キャラクター、祭りでつたえる、グッズ配布）
- ③体験（歴史を知る体験、紙飛行機とばし）
- ④イベント（季節で楽しめるもの、大凧あげ、パラグライダー、そり、ウォーキング、写真、ピクニック、スタンプラリー）
- ⑤ふれあいイベント（動物や生き物、ふれあいコーナー）
- ⑥ボランティア（大人と子ども、ものづくり）
- ⑦その他（段ボール滑り、滑り台）



＜ワークショップ発表で出た意見＞

- ・防塁の感想としては、広い、大きい、深い、長い、景色がきれい。何かやりたくなる。昔の遊びをして広めたい。もっと目立たせたい。体験し深く知ればこんなにもアイデアが出る。チャンバラができて貴重な体験だった。楽しかった。
- ・活用について、広さを活かした運動などの楽しみ方やバスツアー、ボランティアガイド、イベントで継続的に人が来る。

《参考》子ども歴史まちづくりワークショップ【参加者感想抜粋】

◆阿津賀志山防塁に行った感想

- ・何度か行っているが、いつもとは違う見方をして、チャンバラ体験などもできた。防塁をすごいと思った。防塁で様々な体験ができるといい。（小6）
- ・家が近くだが、説明してもらえると良く分かったり、そうなんだと思ったり、新たに知ることができて良かった。（小6）
- ・800年たった今でも残っている。800年前ここで多くの命が亡くなり、多くの人が踏みしめたと思うと、歴史の重みをひしひしと感じた。（学生）

◆ワークショップの感想

- ・みんなで話し合えば、こんなに良い未来の考えができるんだと思います。（小6）
- ・みんなで意見を出し合い、意見をまとめて、発表ができて良かった。（小6）
- ・初めて防塁に行き、体験や意見交換をしたが、大人が考えないような内容を思いつく小学生に驚いた。（学生）
- ・また、このようなワークショップがあれば参加し意見を言いたいと思った。（小6）

(2) 歴史まちづくりワークショップ『みんなで考える！阿津賀志山防塁と中尊寺蓮池を活用した地域の未来づくり』

1) 概要

整備活用委員の仲田茂司氏、知野泰明氏にファシリテーターの協力をいただき、地域の住民が「主役」となり、「防塁と蓮池の魅力は何か、活用するためには何が必要か」を考え、話し合うワークショップを開催した。

冒頭に子ども達と桜の聖母短期大学生のワークショップ発表ビデオを視聴し、目的の共有を行ない、防塁・蓮池の魅力、活用について自由に話し合いをしてもらい 2 班それぞれの意見の発表を行った。

日 時：平成 29 年 3 月 12 日（日曜日） 10 時 00 分～12 時 30 分

場 所：東部高齢者等活性化センター和室

参加者：一般町民 13 名



小学生の考えた防塁活用の発表ビデオを視聴



防塁と蓮池の魅力について意見交換



町内外に広めるには何が必要か考える



各班発表の様子

2) 成果発表 ワークショップでの意見 (抜粋)

●ワーク①「防塁とはなんでしょう？」について話し合い

- ・地元では価値があるとは知らなかった。文化財に登録されたときは驚いた記憶がある。
- ・阿武隈川まで続いているとは知らなかった。以前は防塁があることすら知らなかった。
- ・ハス目当てで見に来る方多い。ハスに興味があっても防塁はよく知られていない。

●ワーク②「なぜ毎年多くの人々が蓮池に来るのでしょうか？」(中尊寺蓮池の魅力について)

- ・ **中尊寺蓮** (花が美しい、泰衡の首桶から出た八百年前の古い種から発芽、約 300 種ある蓮の中でも特に美しい、早朝美しい、泥の中から美しく咲く)
- ・ **景観、ロケーション** (防塁と池近い、阿津賀志山よく見える、ロケーションよい)
- ・ **歴史** (蓮池が二重堀を認識させる、八百年以上の物語がある、平泉)
- ・ **防塁** (下二重しっかり残っている、北から南までの長さ、蓮池と防塁のつながり)
- ・ **情報** (新聞・NHKなどメディアに出ている、口コミで女性多い)
- ・ **写真** (写真撮りに来る、簡単に撮れる、道路から見える)

●ワーク③「防塁と蓮池のどのようなところに歴史や文化を感じることができるでしょうか。」

- ・ 下二重から見る阿津賀志山の眺望が一番。
- ・ 防塁だけだと一度くるだけ、蓮池で防塁も相乗効果。防塁だけでは歴史好きだけ。
- ・ 蓮を長く咲かせるため、蓮池を拡大することも必要か (連作障害対策)。
- ・ 防塁の中 (堀部分) にハスを植えたらおもしろいか。できるかどうかわからないが。
- ・ 蓮が咲かない時期はどうか、例えば防塁全面に芝桜をはったらどうか。
- ・ 蓮池と防塁をお互い行き来できる動線あればいい。インフラ、段差解消するルートあれば。道路も問題。宣伝はいいが、客を受け入れられる環境が必要。夏は日陰ない、人が来れば休憩所も。駐車場も。バス来づらい。
- ・ 下二重から周辺の伝承地を歩かせるなど物語をもたせ回遊できればいい。
- ・ 桃の花を見たい。桃の花も活用できる。防塁で桃を食べたい。
- ・ 人に来てもらうにはイベント必要、阿津賀志山からの桃の花の景色いい、花ももを咲かせても素晴らしい、桃源郷と蓮。
- ・ 八百年の歴史 (三大防塁の一つ、800 年も前に機械もなくできた)
- ・ ガイド、説明があるとすごさを感じる、防塁の長さが素晴らしい
- ・ 義経伝説の腰掛松、弁慶の硯石、伊達朝宗、奥の細道、国見にはいろんな物語がある
- ・ 歴史を知らないと良さが浮かばない。説明がないと防塁理解できない。
- ・ 防塁は国見の宝で未来のために早速に観光に走るべきでない。

- ワーク④「防塁と蓮池の自慢できる良いところをたくさんの人に広めるにはどんな方法があるでしょうか。どんな施設、設備があればいいでしょうか。」

A班 作成したシート、意見及び発表

- ・ 休憩所 (ハスの時期は夏・暑い、桃が食べたい→桃の売店、バリアフリー高齢者施設の人も来る)
- ・ 動線 (導線大切、周回する様なルート、農家は迷惑か?)
- ・ 植栽 (桃の花、芝桜あってもいい、6~9月の蓮とそれ以外の時期)
- ・ 未来ビジョン (遺跡と伝承地をつなぐ、歩かせるのであればみどころの工夫を)
- ・ 道路 (道路を広げバス対策、歩道を確保)
- ・ 駐車場 (Uターンできる駐車場、トイレ)
- ・ 蓮池の展開 (今は堀浅い土塁低い、前は堀が狭く土塁広かった、全部でなくとも復元を)
- ・ 八百年前、当時のこの辺の人たちは大変な苦勞をして防塁を作った
- ・ 阿津賀志山まで続く遊歩道整備してはどうか。防塁への看板(案内板) 必要
- ・ 欠下橋付近の水田は防塁の末端があった場所。みどころにできないか

B班 作成したシート、意見及び発表

- ・ PR (新聞、テレビなどメディアへの働きかけ、ももたんFMでの放送)
- ・ 案内 (国道よりの案内表示を明確に、藤田駅に案内板設置)
- ・ 見せる場所 (阿津賀志山から下二重まで全体を見せる、そば畑とした場所の活用、公園の目的を明確に)
- ・ ルート (道の駅寄りのルート、見学ルートを明確に。防塁全長 3.4 km 見学拠点)
- ・ 施設 (道路の整備、トイレ、パーキング、果物の販売、レンタル自転車を活用、ルートさえあれば歩いてきてもよい)
- ・ 風景を守る (施設を作って景観を壊さないように、大きな観光地にしなくても知る人ぞ知る場所で良い、風景を壊さないように、今のままの姿良い、桃の花の頃よい、桃の頃よい、福島の果物良い、阿津賀志山の信仰とのつながり)
- ・ 整備はできるだけ原風景を壊さないように、最小限にして欲しい。きれいなトイレ 1 つ、車 20 台、バス 1 台の駐車場、簡単な日除け、蓮池と防塁をつなぐルート (年配の方にも配慮) だけあればよい。また、なぜ整備か、なぜ観光が必要か、目的を明確に。

●発表のまとめ

地域の住民に防塁、蓮池について熱心に語ってもらう場となり、地元の考え方や想いを引き出し共有することができた。小学生の発表ビデオは素晴らしいとの感想があり、参加者の中には小学生の祖父もいた。

ワークショップの話合いでは、2班に分かれ進行し、意見を多く出してもらうことを重視しながら、前向きな多くの意見を得ることができた。

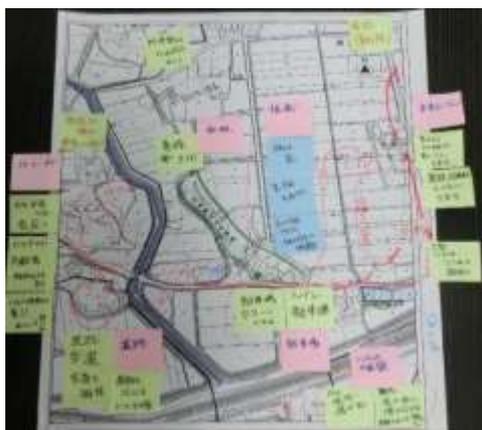
これまで防塁整備委員会及び庁内検討委員会等で議論・検討してきた事と同じ方向性の意見が多く出された。一方で「今の景観を大切にしながら整備の必要がある」との意見も出された。

<活用についての意見>

観光ガイドの必要性、継続的イベント開催、物語を重視した発信、メディアの活用、周辺の伝承地へ派生させる回遊、周辺果樹の花見・売店販売、阿津賀志山及び防塁全体の散策(歩き、自転車)など

<施設、整備についての意見>

- ・防塁と蓮池を周回できる導線(段差解消、行き来できる通路や橋)
- ・蓮池の拡大(連作障害対策)、植栽(蓮の季節とそれ以外の時期)
- ・駐車場(Uターンできる)、バス対策の道路、案内板(道の駅、国道、駅)、遊歩道(阿津賀志山まで)
- ・トイレ、休憩場所、販売などできるスペース
- ・原風景を大切に守るため、最低限の整備で(例えば、きれいなトイレ1カ所、車20台・バス1台の駐車場、簡単な日除け、蓮池と防塁をつなぐルートあればよい)



《参考》 歴史まちづくりワークショップ【参加者の感想：抜粋】

子ども達の考えたアイデアについて感想

- ・若い人達のアイデアの中にも素晴らしい意見がありました。
- ・見て聴いたことを素直に表現しているのがいい。
- ・しっかり考えている。運動会など面白い。

ワークショップを終えての感想

- ・一般の人は防塁と蓮の関連はない認識だと思うが歴史的には大きなつながりがあります。
- ・このような機会を設けてもらい、いろんな意見がきけてよかった。
- ・現状を維持することと不便な事との矛盾をどう解決するかが課題と思う。
- ・国見町の景観を大事にして、歴史をゆっくり考えていきたい（現在の様子と結び付けて）

自由記載（今後取り組みたいこと、全体の感想）

- ・今後も続けてほしい。若い人達の参加を望む。
- ・蓮の花を長年咲かせる工作を確立したい！！（日本でも初めてになると思う）
- ・話題にもでたが景観を重視したら日本一の観光地になると思う。
- ・阿津賀志山防塁と中尊寺蓮池をもっとPRして国見町を多くの人々に知ってもらいたい

3. 整備に向けた課題の抽出

前節において整理した、本史跡の整備に向けた現状から抽出される課題について、以下のとおり列記する。

(1) 史跡の追加指定

史跡指定地は全体の約 3 分の 1 にとどまっているため、今後も調査と追加指定の取り組みを行っていく必要がある。

(2) 自然災害等による史跡のき損対策

現状の遺構を良好に保全していくため、雨水・流水・経年劣化によるき損対策を講じる必要がある。

(3) 史跡改廃及び景観阻害にかかる対策

土地利用関連規制法により、史跡周辺の開発等は一定程度制限されているものの、農業用施設等による改廃や、河川改修による景観阻害の懸念があるため、関係法令や庁内担当部局との連携を密にとり、調整していく必要がある。

また、本史跡の地区毎の多彩な景観を保全するため、これらを意識した整備や、将来にわたり保全していくための取り組みについて検討する必要がある。

(4) 史跡へのアクセス及び便益施設の改善

史跡へのアクセス及び滞在するための環境が不十分であるため、主要幹線道の近接の利点を活かし、誘導サインの拡充及び幹線道から現地までの誘導ルートの確保、駐車場やトイレ等の整備について検討していく必要がある。

(5) 関連文化遺産及び周辺公共施設の活用

町内の関連文化遺産を活用して本史跡の理解を深め、連携してそれぞれの魅力を伝えるため、それらを一体として周遊できる仕組みの構築が必要である。また「国見町文化財センターあつかし歴史館」や「道の駅国見あつかしの郷」等周辺公共施設と連携し、ガイドの充実、情報発信及び周遊性の向上を図る必要がある。

(6) 情報発信及び解説方法の工夫

本史跡の認知度を向上させるため、興味を引く効果的で戦略的な情報発信を行う必要がある。また、見学者に本史跡の理解をより深めてもらうため、現地での解説を行う案内ガイドの養成や、遺構の復元について実施していく必要がある。

(7) 学校教育との連携

本史跡について、将来にわたって地域が愛着を持ち、守り伝えていくため、学校教育と連携し、阿津賀志山防塁を教材として取り入れ、学習の機会を創出する取り組みを行っていく必要がある。